

# 市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



消防出初式で力強く分列行進を行う消防団員（1月5日 大曲市民会館前）

## 水害対策・災害 復旧補正予算を 可決

### 主な内容

### CONTENTS

■年頭のごあいさつ	2
■第4回定例会の概要	2～3
■決算特別委員会からの報告	4
■13議員が一般質問	5～11
■委員会審査のあらまし	12～13
■市民の声、編集後記 ほか	14



年頭のごあいさつ



議長

茂木 隆

市民の皆さまには、希望に満ちた輝かしい平成30年を迎え、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

また、平素より市議会に対し温かいご支援とご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年9月には市議会議員選挙が行われ、その後議長に就任し、4カ月余りが経過いたしました。市民の負託に応えるところに立ち返り、より身近で開かれた議会運営に努めているところであります。

このところの社会情勢は、景況感が幾分持ち直しつつあるとは言われているものの、依然不透明な状況が予想されます。

市議会といたしましても、広範な情報の収集・把握に努めるとともに、状況を的確に判断していく必要があると考えております。また、地方分権社会に即した議会改革にも引き続き取り組み、活力に溢れた魅力ある議会を目指してまいります。

今後とも、住民福祉の向上に向けた、市議会の改革と活性化に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、平成30年が市民の皆さまにとりまして幸多き一年となりますことをご祈念申し上げます、新年のあいさつといたします。

第4回定例会

第4回定例会は、11月28日から12月18日までの21日間の会期で行われました。

本会議1日目に、老松市長の市政報告が行われ、市当局提出の条例案3件、単行案2件、補正予算案8件を原案可決しました。

本会議4日目に、市当局提出の人事案1件、条例案4件、単行案14件、補正予算案3件をそれぞれ同意・原案可決したほか、請願2件を採択、陳情4件のうち3件を採択、1件を不採択とし、意見書案3件を原案可決しました。

一般質問は、これまでで最多の13人の議員が市政全般について、市当局に質問しました。



本会議第2日目 一般質問

※第4回定例会の録画映像は、大仙市ホームページの議会のページでご覧いただけます  
(市議会トップページ→議会中継(映像アーカイブ)→平成29年第4回定例会 本会議)

条例案

▼大仙市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】

人事院勧告を受けた国家公務員の給与改定に倣い、一般職の給料が平均0・23%、12月期の勤勉手当が0・1月分引き上げられました。

▼大仙市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】

▼大仙市長及び副市長の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】

一般職と同様に、国の給与改定に倣い、12月期の期末手当が0・05月分引き上げられました。

▼大仙市下水道事業に地方公営企業法の規定の全部を適用することに伴う関係条例の整備に関する条例の制定について【賛成多数で可決】

【反対討論】

佐藤文字 議員 (日本共産党)

公営企業は独立採算運営が原則であり、公営企業化により下水道料金の値上げが心配される。大きな住民負担とならないよう現状の特別会計のかたちで一般会計より繰入を行い、事業推進を図っていただきたい立場から、本案に反対する。









石塚 柏 議員 (だいせんの会)

**Q 学校給食への  
ハサップ導入後の効果は**

**A より安全・安心な  
給食を提供できている**

**【質問】**平成25年2月に学校給食で292名が食中毒となる事件が発生した。その後、ハサップ（食品安全システム）を導入したが、その効果は。

**【教育長】**ハサップの認証は市内五つの学校給食センター全てが取得する見込みである。ハサップの導入で加熱調理温度の徹底した管理と記録、厨房設備の点検と記録など、作業量が大幅に増加したが、調理員の意識が向上し、食中毒の事故やトラブルは発生していない。

**【質問】**重篤な食物アレルギーの生徒が増えているが、その対策は。

**【教育長】**「大仙市食物アレルギーマニュアル」を定め、アレルギーを持つ児童生徒の個人カルテを作成している。学校と保護者に対しては、除去・代替食のある日を献立表とともに「個別アレルギーチェック表」を通知しており、相互に確認し

ている。また、学校では配膳、喫食、下膳まで確認・記録し、給食担当職員と学級担任が二重にチェックしている。

**◆止水板や水囊の導入を**

**【質問】**今年7月の洪水では、主要幹線道路の黒瀬町のアンダーが冠水した。また、福見町のアンダーからの出水を放置していると、福部内川の堤防工事が意味をなさなくなる。止水板と3メートル余りの水囊で洪水を防いではどうか。

**【市長】**黒瀬町側の道路冠水により、集水枡を伝い一部アンダー側の側溝に流れ込み、流入量が増大したことでアンダーが冠水した。現在は集水枡の改修を完了している。福見町のアンダーへの止水板、水囊の導入は有効な手段の一つなので、県と協議し検討を進めたい。

**【質問】**避難勧告を呼び掛けた地域名が花館地区等と大雑把すぎて、住民に戸惑いがあった。

**【市長】**避難指示は今後、花館上町、花館柳町など具体的な名称で発令し、市民が分かりやすいよう改善を図っていく。



鎌田 正 議員 (大地の会)

**Q 県管理河川の  
浚渫を望むが**

**A 残土置き場が必要。  
遊休公有財産活用を検討**

**【質問】**7・8月の大雨災害により氾濫した県管理河川の早期改修と、河床の浚渫を望む。

**【市長】**国交省から雄物川の「河川激甚災害対策特別緊急事業」が発表され、概ね5年間で雄物川中流部の整備が行われることに伴い、支川となる県管理河川の改修が必要と考え、県知事に要望活動を実施している。樋門が整備される大沢川は、樋門整備後に内水による被害が予想されることから、今後、国・県に内水排水施設等の整備を要望していく。県から州ざらいと伐木除去等を実施していただくには、近傍に残土置き場の確保が重要であり、土地の情報収集と遊休公有財産の活用等も検討していきたい。また、災害復旧体制を強化するため、（仮称）災害復旧事務所を西仙北支所に新設し、3年以内の復旧完了を目指す。

**【質問】**指定されている避難所は満員のため入れず



河川の氾濫状況

地元の会館に避難したが、河川の水位が上がったため危険を感じ、高台へ避難した。また、雨量や水位の状況など正確な情報がなかった。今後、どのような対策をとるのか。

**【市長】**避難所となった西仙北西体育館では避難者が252名となり、避難できない状態となった。今後は道路状況や避難所の状況を考慮し、地域を越えた避難所への避難や、広域避難など選択肢を増やし対応していく。情報共有については、指定避難所への防災ラジオの設置や、FMはなびから水位情報や気象情報等を発信していただくよう協議していく。

※このほか、農業共済金の早期支払い、指定管理者について質問しました。



藤田和久 議員（日本共産党）

**Q 放課後児童クラブ利用料を引き下げできないか**

**A 総合的に検討し、対応していく**

**【質問】市の放課後児童クラブ利用料の値下げを実施できないか。また、放課後児童クラブ支援員の賃金引き上げ、労働条件改善を実現すべきでは。**

**【市長】**現在、市の放課後児童クラブでは、利用希望者が大幅に増加したため、施設整備やクラブ増設によりその対応を図っているが、利用希望の増加に追いつけない状況にある。また、受け入れ人数が増える中、支援を要する児童が増加傾向にあり、支援員だけでは対応しきれない事案も発生しており、支援員の負担が増加している。このため年度途中で辞められる方も多く、支援員の確保に苦慮している。利用料の値下げと支援員の賃金の引き上げ、労働条件の改善は、増加し続ける利用希望に応えるための開設場所や支援員の確保、施設整備、運営方法等と併せて総合的に検討のうえ、対応してまいりたい。



◆臨時職員の賃金・労働条件の改善は

**【質問】6月の第2回定例会で答弁のあった臨時職員の賃金・労働条件改善の検討は、どこまで進んでいるのか。**

**【総務部長】**平成29年10月1日に秋田労働局長が最低賃金の時給を前年から22円アップの738円に決定したことに伴い、県内市町村の賃金単価を参考に各職種の臨時職員の賃金を見直した結果、平成30年度当初予算編成方針による事務補助・施設管理人の時給賃金単価を10円引き上げ、770円とした。

今後は、地方公務員法および地方自治法の一部を改正する法律に基づく「会計年度任用職員制度」が平成32年4月1日に施行されることを見据え、最低賃金の動向や財政状況を勘案しながら、臨時職員の賃金・労働条件について引き続き検討していく。



高橋徳久 議員（だいせんの会）

**Q (仮称)花火伝統文化継承資料館の運営は**

**A 当面は市の直営で運営する**

**【質問】資料館は直営と指定管理者公募のどちらになるのか。**

**【市長】**当面は市直営で運営することになるが、受け皿となる団体の育成を図りながら、民間への委託を検討していく。開館後は運営委員会を設置し、関係団体のご意見を十分に踏まえながら、より魅力的で利用しやすい施設にしたい。

**【質問】運営方針、運営形態および職員の配置は。**

**【市長】**当面は教育委員会所管施設として運営していく。開館日は毎週月曜日および年末年始を除く通年、開館時間は生涯学習機能が午前8時30分から午後9時まで、花火資料館機能が午前9時から午後4時までを予定している。職員は、館長および一般職2名、学芸員1名の4名を配置し、花火資料の整理や施設管理の補佐を行う臨時または嘱託職員4名の採用を計画している。

**【質問】愛称募集に関する詳細は。**

**【市長】**募集期間を12月15日から来年の1月19日までとし、市民、在勤および在学者、ならびに全国の花火鑑賞士の方々から募集する。市民をはじめ全国の花火ファンから末永く親しまれる愛称を、多くの方々から応募していただくことを期待している。

※このほか、道路行政、交通体系について質問しました。



愛称を募集する(仮称)花火伝統文化継承資料館  
(完成予想図)





金谷道男 議員 (大地の会)

**Q 防災ラジオの全戸無償貸与を実施できないか**

**A 貸与状況や市民意向調査を踏まえて検討したい**

**【質問】災害時にコミュニティFMを使い、市民へ即時一斉に情報伝達できる防災ラジオの無償貸与・販売状況はどうなっているのか。**

**【市長】**緊急時の情報伝達手段の多重化を図るため、FMはなびの電波を利用し、自動起動装置を備えた当市のオリジナル防災ラジオを市内企業に制作を依頼し、避難行動要支援者等を対象とした無償配布とそれ以外の方々への販売を平成28年度より行っている。本年12月現在で、無償貸与の対象者は9,849名いるが、辞退者がいるため貸与台数は5,314台となっている。販売は市が半額補助する制度を設け販売促進しているが、販売台数は86台である。

本年の災害では、避難情報を防災ラジオで聞き避難に役立ったとの声もあったことから、未貸与となっている避難行動要支援者への貸与促進を図



大仙市オリジナル防災ラジオ

るとともに、消防団幹部や自主防災組織役員、警察、消防、災害時の協力企業などへ無償貸与枠を拡大し、避難行動等に役立てたい。

**【質問】住民個々への災害情報の伝達は行政の責任と思う。一斉伝達できる防災ラジオを全戸に無償配布できないか。**

**【市長】**防災ラジオの有効性については認識している。市民への周知や意識調査などをしながら、防災ラジオがその機能を最大限発揮できるようなシステム構築に向けて検討したい。



佐藤育男 議員 (大地の会)

**Q 条件の不利な中山間地域の農業振興策を**

**A 特色ある中山間地域農業の取り組みを支援**

**【質問】中山間地域は傾斜地などによる農地の条件不利性や鳥獣被害の増加、人口減少・高齢化・担い手不足など厳しい状況に置かれている。今後の中山間地域における農業振興策について伺う。**

**【市長】**大仙市の水田面積の22%に当たる4,100haの中山間地域農業については、抱える課題に対応するため、市単独で①「小規模集落元気な地域づくり基盤整備事業」を立ち上げ、20ha以下の基盤整備を92.5%の補助率で実施②「未来へつなぐ農村地域サポート事業」を実施し、農村資源の保全活動や農作業のサポート事業に加え、除雪・防犯などの地域活動を含めバックアップ③「遊休農地活用支援事業」により、耕作放棄地の再生と再生後の農業活動を後押し—の三つの方向性で取り組んでいる。また、県事業の「元気な中山間地域農業応援事業」と連携し、水田の畑地化整備や地域特産品の導入、

6次産業化に必要な機械・施設の導入を支援している。こうした事業を継続し、特色ある中山間地域農業の取り組みを進めていく。

◆農家の負担軽減を

**【質問】農地、農業用施設災害における、農家の負担軽減について伺う。**

**【市長】**今回の災害は激甚災害に指定され、1カ所の工事費が40万円を超える災害箇所は、県の試算で、国の補助率が農地で87%、農業用施設では95%を想定している。12月中旬には国へ補助率増高申請を行い、大幅な負担軽減が図られることとなっている。さらにはその補助残の75%を市で負担することとしているが、一カ所の工事費が40万円以下の災害箇所は、市が4分の3、県が4分の1を助成し、農家負担をゼロとするよう支援する。

※このほか、中小河川の維持管理や今後の整備計画について質問しました。



後藤 健 議員（大地の会）

**Q ニホンジカやイノシシ  
への対応は**

**A 増加を見据え、  
今後の取り組みを協議**

【質問】農業被害や自然への影響が大きく、市内でも目撃情報が増えてきているニホンジカやイノシシについて、現在の個体数や分布域はどのようになっているのか。また、被害防止に向けた早めの対策が急務では。

【市長】今年9月に中仙地域でイノシシによるジャガイモの農業被害が確認されており、今後は県内全域で生息数が増える可能性が高い。生態や被害状況を踏まえて鳥獣被害対策協議会で情報交換を行い、今後の取り組みを協議する。また、狩猟期間による個体数調整や必要に応じて防護柵の設置など、農地への侵入を防ぐ取り組みを進める。

#### ◆電子母子手帳アプリや

低出生体重児用の母子健康手帳の導入は

【質問】クラウドでデータの保存ができ、予防接種



や子育て情報などが直接通知される電子母子手帳のアプリを導入し、子育て世代の利便性向上を目指しては。

【佐藤副市長】子育て世代のニーズを満たすアプリの導入を視野に検討していく。

【質問】早産などで小さく産れた赤ちゃんと母親のために低出生体重児用の母子健康手帳を導入して、母親の不安解消につなげるべきでは。

【佐藤副市長】低出生体重児については、医療機関や療養機関との連携を密にし、引き続き支援の充実を図るとともに、低出生体重児用の母子健康手帳については、県や関係機関とも情報交換して、全県的な取り組みになるよう提案していきたい。



秩父博樹 議員（公明党）

**Q 「大仙市イクボス宣言」  
の今後の取り組みは**

**A 市内企業に対しても  
推進していく**

【質問】大仙市は男女共同参画都市宣言から10年の節目を迎えたが、ワーク・ライフ・バランスの推進状況について、また、幹部職員で実施した「大仙市イクボス宣言」の内容と、今後の取り組みについて伺う。

【市長】市町村合併後、「大仙市男女共同参画プラン」を策定し、仕事と家庭を両立できる職場環境づくりなどの取り組みを積極的に進めてきた。平成27年には「第2次大仙市男女共同参画プラン」を策定し、事業者等への働きかけや女性の活躍推進など、新たな内容を盛り込んできた。5年ごとに実施している男女共同参画に関する意識調査では「家庭生活等と仕事を同じように両立させている」と答えた割合が増加している。

大仙市イクボス宣言文は、管理職による共通の3カ条のほかに、職員自らが1カ条を加えた計4

カ条とし、各所属先で課員が見える位置に掲示して意欲的に取り組むこととしている。今後は、企業連絡協議会や大曲仙北雇用開発協会に所属する事業所、市内企業に対しても、働き方改革のきっかけとなる「イクボス宣言」の推進に努めていく。

【質問】子育てや介護は、社会的なサポートとして支え合う方向にさらに変わっていかねば、ジェンダーギャップを埋めることは困難と考えるが、この点を後押ししていく方向性について伺う。

【市長】「女性の力」の発揮は、社会のさまざまな課題の解決を主導する人材の層を厚くし、すべての人にとって暮らしやすい社会づくりにつながる。市では、すべての人が自らの希望に応じ、個性の能力を十分に発揮できる社会の実現に向け、さまざまな意識啓発に向けた取り組みを推進する。また、市広報誌に、女性が起業し成功している事例や取り組みを紹介する「だいせんの輝く女性たち」を定期的に掲載しているほか、女性の能力の活用と仕事と生活の調和に取り組む「男女イキイキ職場宣言」を積極的に市内事業者に働きかけることで、女性の活躍に対する機運の醸成を図り、女性の経済参画・政治参画に努めていく。





挽野利恵 議員（公明党）

**Q 保育士確保対策の  
効果は**

**A 実施後間もない事業もあり、今後検証していく**

**【質問】保育士不足の原因である賃金問題について、大仙市独自の対策を実施しているが、その効果はどれぐらいあったのか。**

**【佐藤副市長】**大仙市独自の対策として「保育士就労奨励金制度」「臨時保育士処遇改善推進事業」「保育士就業支援事業」を実施しているが、保育士就労奨励金は、新たに勤務する常勤の臨時保育士に交付するもので、平成28年度は6人であったが、今年度金額を引き上げ、現時点で11人が新規に就労した。今年度から実施している「臨時保育士処遇改善推進事業」は、臨時保育士の処遇の改善を行う保育所等の設置者に対し、その改善に要する費用を助成するもので、月額が15万円を超えるよう時給の引き上げをお願いし、社会福祉法人大曲保育会・大空大仙で取り組んでいる。同じく今年度より実施の「保育士就業支援事業」は保育

士資格を持っていて働いていない方が、事前に保育所等で実務研修を行う制度で、就業に関する不安を解消していただくものである。現在1件の申し込みにとどまっている。

これらの事業で、就労前・就労時・就労後の三つの支援を進め、保育士確保に努めているが、実施後間もない事業もあり、その効果を今後検証していく。また、保育士の確保については、保育事業者と現状認識を共有し、市として取り組みが可能な対策を模索していく。

**◆臨時職員の職種別賃金単価の根拠は**

**【質問】職種に応じて賃金単価が違うが、その仕訳の根拠は何か。**

**【総務部長】**賃金の単価は、職種、職責、業務内容、資格の有無により違う。合併前から調整し現在に至っているが、特に明文化された基準やルールの定めはない。今後は、職務内容、職責等を考慮しながら、引き続き検討していく。

※このほか、議会資料等の電子化について質問しました。



古谷武美 議員（だいせんの会）

**Q サケ有効利用調査の  
実施は可能か**

**A 山形県の事例を調査し、  
県と協議を進めていく**

**【質問】一般人の鮭捕獲は法律で禁止されているが「サケ有効利用調査」というかたちで、一般人が有料で調査することが可能なようである。大仙市でも実施は可能か。**

**【市長】**鮭の特別採捕許可権を持つ秋田県への問い合わせでは、資源保護を目的とした増殖事業と観光を結びつけて管理することが難しく、現時点では許可する考えはないと回答があった。今後、先進地である山形県の事例を調査し、引き続き県との協議を進めていく。

**【質問】鮭・マス資源を利用した活性化を検討しているか。**

**【市長】**市民団体がサクラマスの釣り人を対象とした「大仙サクラマス・ダービー&大仙サクラマスまつり」を実施しており、今後も継続して実施したいと伺っている。また、今年から鮭捕獲のため

丸子橋付近にウライを設置しており、橋から捕獲状況が確認できるため、（仮称）花火伝統文化継承資料館と合わせて観光資源としても活用していく。

**◆避難所の収容人数は**

**【質問】大仙市に133カ所の避難所があるが、各避難所の収容人数は。**

**【久米副市長】**11月に配布したハザードマップでは105カ所に見直しし、市全体で5万9,029人としている。議員の地元の藤木・角間川地区では大曲南中学校ほか4カ所で1,509人の受入可能人数となっている。

**【質問】避難所に行く途中で冠水や崩落があり、たどり着けない場合を想定し、近場の工場等を緊急避難所にできないか。**

**【久米副市長】**現在、金融機関や大型店舗を有する企業など11社41施設と災害時生活物資等応援協定を締結しているが、工場を有する企業とは協定を結んでいない。ご協力いただける企業があれば、協定締結を検討する。



三浦常男 議員（市民クラブ）

### Q 若手職員の人事配置は

### A 多様な業務経験を 通じて業務適正を把握

**【質問】新規採用・若手職員に幅広く業務を経験させ、対応力の高い職員を育成するべきでは。**

**【市長】**若手職員の人事配置のうち、新規採用職員は、基本的に本庁内の各課所に3～5年の職務経験を積ませた後に、各支所等の各課に配属し、概ね35歳までに少なくとも二つの異なる業務分野を経験できるよう配置している。新規採用職員を本庁各課に配置することは、基本的知識や専門的知識の習得はもちろん、日常の仕事を通じて先輩職員が意識的・継続的に指導し、人材育成・能力開発を行う職員研修を行う職場環境と考え配置している。また、概ね35歳までに少なくとも二つの異なる業務分野を経験させるのは、多様な業務経験を通じて職員が自らの業務適正等を把握できるようにするためである。

来年度は新たに一般事務職初級の職員も採用す

ることから、新規採用職員を含む若手職員の各支所への人事配置については、各課所のバランスを考慮し検討していく。

### ◆消防団員の加入推奨を

**【質問】消防団員の加入推奨について、各企業への働きかけを実施しては。**

**【久米副市長】**大仙市消防団の団員数は条例定数に満たない状況にあり、団員の高齢化に伴う退団者の増加と新入団員の減少により、全体として減少傾向にある。市では年報酬や費用弁償の引き上げによる消防団員の処遇改善に努めているほか、消防団協力事業所制度の推進や消防団員のいる企業等を消防団幹部が訪問し、一層の理解と協力をお願いする活動など、市と消防団が協力して団員確保に取り組んでいる。今後は消防団員がいない企業等については、入団希望者が入団しやすい環境をつくるため、消防団幹部等による訪問や文書等により消防団活動への理解を促し、新入団員の確保に努めていく。



小笠原昌作 議員（地域住民の会）

### Q 農業を支える 将来ビジョンは

### A 大仙ブランドの 確立を目指す

**【質問】基幹産業である農業を支えるために、どのような将来ビジョンをお持ちか。**

**【市長】**攻めの姿勢で農業所得の向上を図る6次産業化を一層進め、大仙ブランドの確立を目指していく。

**【質問】東京オリンピックへの食材提供を実現してはいかがか。**

**【市長】**オール秋田で国内外の関係者に大仙市産農産物の品質の高さなどをアピールする絶好の機会と捉え、攻めの農業の実践につなげてまいりたい。

### ◆スポーツの推進を

**【質問】スポーツの推進は健康維持、医療費の抑制にもつながる。活発な取り組みと強化を。**

**【教育長】**全市民がスポーツに親しみ、健康づくりを進め、豊かな生活と地域コミュニティづくりに結びつくよう努めてまいりたい。

**【質問】500歳野球は発祥の地である神岡の宝である。今後の運営のあり方を伺う。**

**【教育長】**今後も全国大会を展開していくうえで、その歴史と背景を大切にしながら「野球に燃える親父たちの甲子園」を成功に導きたい。将来的には、本市を代表する「大曲の花火」に次ぐイベントにしたい。

### ◆地域住民の声を

**【質問】西仙北中央公民館の改築では、若者から高齢者まで地域住民の声を反映してほしい。**

**【教育長】**これまで以上に地域住民に開かれた、生涯学習の拠点として利用される公民館を目指していく。駐車場は現在の約2倍のスペース、また、大綱の展示等は保存会等のご意見を踏まえて検討していく。

### ◆若者の力を

**【質問】地域活性化の切り札は若者の力が不可欠。伝統文化や技術の継承のためにも人材育成を。**

**【市長】**さまざまな年代の方々の意見を基に地域活性化対策の展開と地域づくりに努め、次の時代を担う若いリーダー育成を図りながら、将来に夢と希望を持てるまちづくりを推進していく。





佐藤文子 議員（日本共産党）

Q 学校給食の無料化を

A 無償化全国調査後の  
国の動向を注視する

【質問】全国では、若者定住・子育て支援・食育推進から、83自治体が学校給食無料化に取り組んでいる。食育推進は教育の一環であり、格差拡大社会の中で、食事や栄養は学校給食が頼りという子どももあり、学校給食の無料化は子どもの健全な成長に大きく寄与する。

老松市長の若者定住・子育て支援・食育推進に向けた新たな取り組みとして、学校給食の無料化を発信しては。

【市長】食育の重要性は申すまでもなく、すべての小中学校で「食に関する全体計画」を作成し、教育活動全体の中で推進している。学校給食法で明記されているように、食材費となる給食費は、保護者から負担していただくこれまでの対応をお願いしたい。

先般、国により各自治体の学校給食費無償化の



取組状況調査が実施され、その結果の公表が予定されていることから、今後の動向を注視してまいりたい。

◆18歳までの医療費を無料に

【質問】18歳までの医療費を無料にすることで、経済的負担が急に増える高校生のいる世帯や、働いていても収入が少ない年齢層の家計応援につながり、これに対する市独自の財政負担は3千万程度と考える。ぜひ無料化を高校卒・18歳年度末まで実施してほしいが所見を伺う。

【市長】現在、秋田県内の1市4町で18歳の年度末まで助成を実施していると承知しているが、市では子どもの医療費助成を義務教育課程までと捉えており、高校卒・18歳までの助成は県全体の施策と考える。他の子育て支援策と併せて、中学生までの医療費助成を着実に継続していく。

久米副市長が任期満了で退任

12月16日の第4回市議会定例会で、25日に任期満了で退任する久米副市長よりあいさつがありました。

久米副市長は昭和46年4月に旧大曲市役所に入庁し、財政課・税務課・土地区画整理事務所を経験し、その後、財政課長・産業経済部長・総務部長を歴任、市町村合併時の初代総務部長に就任。主に総務畑を中心にさまざまな業務を担当されました。平成17年12月に助役、平成19年12月に副市長に就任し、3期12年間で、市勢発展のためご尽力されました。

議会から長年のご労苦に対し、感謝の意を込めて花束を贈呈しました。



茂木議長より花束を贈呈される



退任のあいさつをする久米副市長(本会議第4日目)

## 企画産業常任委員会

条例案1件、単行案1件、補正予算案2件、陳情1件を審査しました。

### ●被災した農地の農家負担は？

**【問】**農地等災害復旧事業費補助金について、今回追加された県からの上乗せ助成により、小規模災害復旧工事にかかる農家負担はゼロになるということだが、5万円以下の工事費により補助対象外となる農家に対しては、どのような対応を取っているのか。

**【答】**多面的機能支払交付金などを活用し、法面の修復や砂利等の撤去を実施しているため、農家負担はほぼゼロである。



被災した農地

### ●温泉施設の計画的な管理を

**【問】**柵の湯の管理について、平成19年度に井戸洗浄を行って以来、10年間井戸洗浄を行っていない。業者からは5年に1回行うように言われているようであるが、今後の管理についてはどう考えているのか。

**【答】**計画的な管理に努めていきたいと考えている。



史跡の里交流プラザ  
柵の湯

## 総務民生常任委員会

条例案5件、単行案3件、補正予算案4件、陳情2件を審査しました。

### ●育児休業中の補償は？

**【問】**育児休業の延長が図られ、臨時・非常勤職員も休業できることとなったが、延長による休業補償はあるのか。

**【答】**育児休業期間は基本的に無給であるが、一定の要件に該当する場合は、雇用保険から手当が支給される。

### ●任期付き一般職職員の職種は？

**【問】**一般職の任期付職員の採用で、高額な月額を支給する規定がある。どんな職種なのか。

**【答】**任期付職員には4種類あり、そのうち、例えば医師、公認会計士、弁護士等の資格を有する方を採用する場合は特定任期付職員となり、高額な月額が支給される。その他3種類には、一般職と同じ給料表が適用される。

**【問】**一般職の任期付職員の採用で、具体的に想定しているものは何か。

**【答】**今、想定しているものは、災害復旧事業に当たる職員の一部である。

### ●旧姓表記のメリットは？

**【問】**マイナンバーカードに旧姓を表記しなければならぬ背景と、利用へのメリットは何か。

**【答】**背景としては、国の女性活躍のための審議の中で、職場で旧姓をそのまま使いたいという女性のために、手続き上、簡単に旧姓を証明できるよう、マイナンバーカードに表記することが閣議決定された。メリットは、カード1枚で旧姓を証明できることである。



## 建設水道常任委員会

条例案1件、単行案3件、補正予算案7件、請願2件を審査しました。

### ●淀川河川改修事業に関する請願

(淀川振興協議会 会長 武藤利雄)

**【請願内容】**去る7月の豪雨により、淀川地区は甚大な被害を受けました。今後もこのような豪雨による被害が想定されるので、河川改修事業の早期完成を請願します。

**【当局の意見】**このたびの豪雨は、最大24時間雨量が383mmに達し、全壊3戸、半壊4戸、床上浸水26戸、床下浸水39戸の甚大な被害があった。県では75億4千万円の予算で、被害のあった約4kmの区間の築堤・河道掘削・橋梁架替等の復旧事業を実施すると伺っている。

### ●松倉地区の水道整備に関する請願

(松倉部落理事長 佐々木 昇)

**【請願内容】**松倉地区では経年の変化により、自家用水が水質の悪化や地下水位の低下で水量不足が顕著になり、飲料水の確保や洗濯にも苦慮しています。ついては、神宮寺地区簡易水道を拡張して、松倉地区に上水道の整備を請願します。

**【当局の意見】**神宮寺地区簡易水道は第1・第2水源より取水しているが、揚水量が低下している。そのため、第1水源の隣接地に新たに第3水源を設けて取水井を築造し、安定した取水量を確保しながら水道水の安定供給を図り、併せて松倉地区へ区域拡張工事を進めたいと考えている。

**【問】**水道を松倉地区に伸ばすことによって、神宮寺地区簡易水道に影響はないのか。

**【答】**調査の結果、第3水源予定地には豊富な水源があることを確認している。これを利用すると、松倉地区への供給は可能と考えている。

## 教育福祉常任委員会

単行案9件、補正予算案4件、陳情1件を審査しました。

### ●過去にトラブルは？

**【問】**指定管理となっている五つの福祉施設では、過去5年間にトラブル等の発生はなかったか。

**【答】**利用者からのクレームはなかったが、水沢世代交流福祉館は温泉を備えており、経年劣化によるポンプや配管の破損があった。また、中淀川世代交流福祉施設では、7月の大雨による災害で配管が破損した。

### ●指定管理の選定理由は？

**【問】**神岡中央公園の指定管理には2団体から申し込みがあったとのことだが、大仙スポーツクラブが選定された理由は。

**【答】**大仙スポーツクラブは本年度までの5年間、指定管理者として運営しており、地域に根ざした管理運営が評価された。

### ●同様の事業所はあるのか？

**【問】**今回、地域密着型サービス事業所整備事業費補助金を活用して整備する事業所と同様のサービスをする事業所は市内にあるか。

**【答】**市内では大曲地域の鷹揚館があり、今回で2事業所目となる。

### ●他の候補地は？

**【問】**大曲武道館の改築に当たり、現在地と仙北ふれあい体育館駐車場が候補地となったようだが、ほかの場所は考えなかったのか。

**【答】**利用者や関係団体の利用頻度を調査した結果、大曲地域と仙北地域が飛び抜けて頻度が高かったため、この2地域に絞って検討した。

# 市民の声

西仙北老連の事業の一つである地域管外研修会で、昨年に続き大仙市議会を傍聴した。12月7日の10時から12時迄の2時間である。一般質問の冒頭『高校の恩師が来ておりますので、しっかり質問します』。初めて担任を持った時の教え子である。

この日は3議員の質問発言を体験できた。「学校給食の安全と食育について」「大雨災害に関すること」「学童保育について」等々である。質問内容については前もって分かっているものがほとんどだと思うが、再質問についてももしっかり答弁できていたことは、市長、教育長等行政担当者の自信を感じることができた。

議会を傍聴することで、私たち市民が選出した、私たちの代表の活躍の一端を確認することができ、大きな収穫であった。機会があれば、老人クラブの課題解決の質問を地元議員にお願いできる日も近いと思う。

教え子の今後の活躍を期待しながら議場を後にした。傍聴者は23名である。

西仙北地域老人クラブ連合会  
会長 阿部栄健

## 議会改革推進会議の正・副委員長が決定

委員長・副委員長が決まりましたので、再度委員会構成をお知らせします。〔◎委員長 ○副委員長〕

※議会改革推進会議は、議会基本条例の運用・啓発・見直しや、議会改革の推進の検証に関する事項について調査・審議を行います。

- |        |        |       |
|--------|--------|-------|
| ◎小山 緑郎 | ○高橋 徳久 | 秩父 博樹 |
| 石塚 柏   | 佐藤 文子  | 小松 栄治 |
| 古谷 武美  | 金谷 道男  |       |

## 3月定例会日程のお知らせ

- 2月23日(金) 本会議第1日(施政方針演説、議案等上程)
- 3月5日(月) 本会議第2日(一般質問)
- 6日(火) 本会議第3日(一般質問)
- 7日(水) 本会議第4日(当初予算・議案質疑、委員会付託)
- 8日(木)・9日(金)・12日(月) 常任委員会審査
- 16日(金) 本会議第5日(委員長報告、質疑、討論、表決)

※現時点での予定であり、変更される場合があります。変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

## 議長交際費 (10月1日~12月31日)

		件数	金額
予算額			900,000円
既支出額		48件	464,568円
今回支出額		28件	139,880円
内訳	弔慰	2件	20,000円
	慶祝	11件	56,000円
	協賛	15件	63,880円
予算残額			295,552円



新年あけましておめでとうございませう。昨年豪雨・地震と災害の多い年でありました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。また、「災害・防災に強いまちづくり」を目指して、市当局とともに一層努めてまいりたいと存じます。この平成30年が、市民の皆さまにとりまして素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。さて、10月に新たなスタートを切った市議会ですが、12月の本会議では紙面のとおり、史上初となる13人が登壇して、当局に対して一般質問を行いました。内容としては災害・防災・教育・子育て・まちづくり・農業など多岐にわたるもので、地域住民の声を市政に反映させ、また、議会の活性化を図り活力ある議会に繋がったものと確信しております。今期の「議会だより」ですが、後藤委員長のもと「しっかりと伝わる議会だより」を心がけ、読みやすい紙面になるよう横書きを多用しております。今後も工夫を凝らしてわかりやすく見やすい紙面づくりを目指して努力してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

(副委員長 高橋徳久 記)

向かって右から

- |    |    |    |     |    |      |    |    |    |    |
|----|----|----|-----|----|------|----|----|----|----|
| 委員 | 委員 | 委員 | 委員  | 委員 | 副委員長 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 |
| 古谷 | 橋村 | 佐藤 | 小笠原 | 後藤 | 高橋   | 佐藤 | 小山 | 佐藤 | 育男 |
| 武美 | 隆盛 | 誠  | 昌作  | 徳久 | 利恵   | 文子 | 緑郎 |    |    |

